

# 2020年度

## 新居浜市海洋教育パイオニアスクールプログラム

# 実践記録集



塩の学習館



塩の学習



ミニ塩田「ソルティ多喜浜」

日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

東京大学海洋アライアンス  
海洋教育促進  
研究センター

財団 笹川平和財団

© 海洋政策研究所

## 新居浜市教育委員会

Hello!  
NEW

新居浜

# 新居浜市の海洋教育に関するコンセプト

## (1) 新居浜市における海洋教育について

本市は、四国の瀬戸内海側のほぼ中央に位置し、北側は瀬戸内海の燧灘（ひうちなだ）、南側は赤石山系の山々に面しており、また市内唯一の離島である新居大島には市営の渡海船が運航されているなど、山と海両方の自然を満喫できる自然豊かな環境を有しています。さらに、「マリパーク新居浜」や「黒島海浜公園」など市民が気軽に河川や海岸等の水辺環境に親しむ場や機会が設けられています。

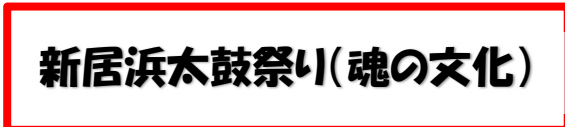
また、市内すべての小中学校がユネスコスクールに加盟しており、防災・環境・福祉など各校において地域の特色を生かしたE S D（持続可能な開発のための教育）に取り組んでおります。

しかしながら、地球規模の温暖化や海面上昇、海洋プラスチックごみの集積など、海洋生態系が深刻な脅威に直面しており、海の自然や資源を守り持続可能な社会を構築するためにも、子どもから大人までひとりひとりが自分のこととして問題を位置づけ、解決に向けて取り組んでいくことが必要です。特に、子どもの頃から海洋教育に取り組んでいくことが重要であると考えております。

そこで、本市では、別子銅山と並んで主要産業であった塩田文化を学ぶことを中心に、子どもたちが海に親しみ、海とともに発展してきたふるさと新居浜に関する知識や理解を深め、海洋がもつ恩恵を感じ、豊かに育つことを目的として「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の認定を受け、国連で提唱されたS D G s（持続可能な開発目標）14「海の豊かさを守ろう」の達成にも寄与する海洋教育に取り組むことといたしました。

新居浜の子どもたちが「海について学ぶ」ことで、自然、歴史文化、産業など「地域の総合的・発展的な学び」となり、「郷土を愛し誇りをもつ、子どもの育成」につながると考えています。

## 【新居浜の3つの文化】



## (2) 海洋教育とは

### 海洋教育は日本の未来を支える学校教育のテーマです

人類は、海洋から多大な恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題となっています。

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能にする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指しています。この目的を達成するために、海洋教育は海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進するものです。

### 海洋教育の4つのキーワード

海洋教育は「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学ぶものです。



(笹川平和財団ホームページ「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より)

## 2020年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム(地域展開部門)年間計画(案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>全体 (事務局)</b>		第1回海洋教育推進協議会 海洋教育パイオニアスクールプログラム担当者情報交換会参加		海洋教育研究会参加 映像教材作成会議	あかかね水族館 8/15~10/18 ↓ 教員対象研修会			海洋教育研究会参加	映像教材作成会議		第2回海洋教育推進協議会 全国海洋教育サミット参加 各校より報告書提出	報告書・実践記録集提出
					学習プログラム検討・DVD内容等検討							
<b>市内参加校 (16校)</b>		年間計画提出			海洋教育・ESD(ふるさと学習等)の実践						まとめ・発表	

## あかがね水族館 ～私たちが守る海～

### <概要>

「海に住む生き物」の絵や塗り絵を WEB で募集し、応募のあった作品を海の中をイメージした壁（こいはまギャラリー）に展示する。

### <目的>

国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」では、2030 年までの国際目標として「持続可能な開発目標(SDGs)」が示され、17 の目標のうち、ターゲット 14として「海の豊かさを守ろう」という目標が掲げられている。子どもたち自身の手により豊かな海(水族館)を作り上げることで、海や生き物を大切に触れ、さらに地球温暖化や海面上昇、海洋ゴミなどについて考える機会を提供し、海洋教育の推進を図る。

### web 募集要項

私たちの生活を支えてきた海。その海がいま、多くの危機に直面しています。

あかがねミュージアムでは海洋教育の一環として海に住む生き物のイラストや塗り絵を募集し、子どもたち自身の手で豊かな海を作り上げる「あかがね水族館」を開催します！

募集期間:7月10日(金)～8月5日(水)

対 象:3歳～中学3年生(未就学児は塗り絵)

応募方法:PDF 又は画像データを応募フォームからご応募ください。

展示会場:あかがねミュージアム2階展示ロビーほか

展示期間:8月15日(土)～10月18日(日)

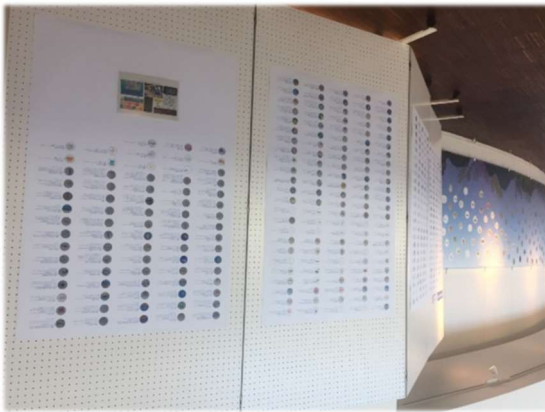
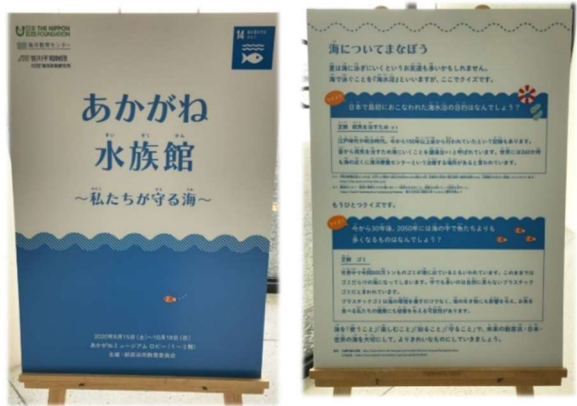
開館時間:9時30分～17時

観 覧 料:無料



詳細は新居浜市美術館ホームページをご覧ください。

# 展示の様子



4 百点以上の応募があり、全て展示しました



缶パッチの工作



子どもたちの作品がパッチになりました。

#### <作品のコメントや海への願い>

- ・たこは、うみのにんじゃのようだ。(3歳)
- ・メジロザメのなかま怖いけど一緒に泳ぎたい。(小1)
- ・海の生き物が豊かに過ごせますように。(小3)
- ・ゴミを海の中に落とさない。(小4)
- ・きれいな海で遊びたい、きれいな海で泳ぎたい。(3歳、5歳の兄妹)
- ・魚が喜ぶきれいな海になるといいな。(6歳)
- ・魚たちが住みやすい海にしよう！(小6)
- ・百年先も綺麗で、穏やかな海であって欲しい。(小4)
- ・ゴミをポイ捨てしない。(小2)
- ・ヒトデでもきれいなうみがすきかな(4歳)
- ・色んな魚が見れる綺麗な海でいてほしいです。(小4)
- ・ジャンプするところがかっこいいバンドウイルカ。(小1)
- ・海が、ゴミだらけで汚いぞ！(小6)
- ・ウミガメや自分達も気持ちよく泳げる海に。(4歳)
- ・綺麗な海、豊かな地球を守りたいです。(中1)
- ・ジンベエザメ、日本で一番大きい魚です。(小5)
- ・サメとカジキかっこいいな！(小3)
- ・魚も僕も気持ちいい海にしていきたい！(小2)
- ・プラスチックゴミが少なくなれ！(小4)
- ・自然環境について考え、海を大切にしたい。(小6)
- ・プラゴミを海や川に捨てないでほしい。(小3)
- ・大好きな魚が住みやすい環境を作りたい。(小6)
- ・ぎんぼはでっかいわのしたにいた。べらみたい。ゆたかな海になってほしい。(小2)
- ・プラスチックやごみをすてる人がいなくなるとういいます。まずは、自分からがんばります。(小5)
- ・海に行くと、プラスチックゴミがいっぱいおちていたの、ゴミをすてるのをやめてほしいです。(小6)

自分がつくった作品の缶バッジがもらえるよ！



「海に住む生き物」のイラスト  
や塗り絵を募集します！



すいぞくかん

# 「あかがね水族館」

わたし まも うみ  
～私たちが守る海～

募集期間：2020年 7月10日（金）～8月5日（水）

手作り缶バッジをつくらう！

夏休み中の土日に  
缶バッジをつくる  
体験ができるよ！



作品  
募集

海とともに生きる未来を切り開こう

私たちの生活を支えてきた海。その海がいま  
地球温暖化による海面 上昇 や海洋プラスチック  
ごみ問題など多くの危機に直面しています。

あかがねミュージアムでは海洋教育の一環として  
海に住む生き物のイラストや塗り絵を募集し、  
子どもたち自身の手で豊かな海を作り上げる  
「あかがね水族館」を開催します！

### 対象

3歳～中学3年生(未就学児は塗り絵)

### 応募方法

PDF又は画像データを応募フォーム  
からご応募ください。

### 展示会場

あかがねミュージアム 2階展示ロビーほか

### 展示期間

2020年8月15日(土)～10月18日(日)



詳細は新居浜市美術館ホームページをご覧ください。

<http://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/bijutu>

日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

海洋教育センター  
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION

笹川平和財団

©2021 海洋政策研究所

主催 <主催> 新居浜市美術館

協力 <協力> あかがねミュージアム 運営グループ





## 宇和島市との海洋教育交流事業（12/21）

### <概要>

かねてより新居浜市との交流事業を推進している宇和島市と、海洋教育推進の一環として、海の恵みから多くの産業を振興し発展させてきた宇和島市の海洋産業を学ぶ。宇和島市教育委員会や地元漁業関係者、宇和島水産高校の協力により「真珠の球出し体験」、「真珠アクセサリ作り」「鯛の養殖見学、えさやり体験」、「真鯛の解体ショー」など真珠や鯛に関わるアクティブ・ラーニングを行った。

### ●当日の様子



真珠の養殖場の見学



真珠の球出し体験



真珠アクセサリ作り



柑橘類を混ぜた鯛のエサに関する説明



鯛のエサやり体験



フィッシュガールによる解体ショー

### <参加者の感想>

- ・真珠の球出し体験では、貝の中に丸い感触があって驚きました。自分の目で見て、手で触ってたくさんことを体験できました。(小5男子)
- ・アコヤ貝の命をいただいて真珠ができていくことを知りました。真珠はアコヤ貝のなみだのようでした。(小6男子)
- ・みかん鯛のお刺身は本当にみかんの味がして驚きました。(小6年女子)
- ・アコヤ貝はねっとりしていて納豆みたいでした。出てきた真珠はみんな大きさや色も違ってびっくりしました。(小4年女子)
- ・きれいな真珠を取り出すことができてすごくうれしかったです。真珠はひとつとして同じものがない人間が作る宝石であることを知りました。(小6女子)
- ・みかん鯛やいちご鯛、チョコレートぶりなど新しい魚の開発にチャレンジしていることを知って驚きました。みかん鯛はとても美味しかったです。(小6男子)
- ・鯛のエサやり体験では、エサの作り方を工夫してみかん鯛などを養殖していることを学びました。(小4年女子)
- ・鯛のエサやり体験では、1つのいけすの中に1万匹の鯛がいることを知ってびっくりしました。(小4年男子)
- ・みかんの香りがするエサや解体ショーを初めて見て鯛に興味を持ちました。新居浜市とは違う宇和島市のいい所をたくさん見つけることができました。(小4年男子)
- ・みかん鯛と真鯛の食べ比べをして、本当にみかんの味がしてすごいと思いました。魚のことについてもっと調べたいと思いました。(小4年女子)
- ・真珠を出した後のアコヤ貝は捨てられることを知ってとても悲しかったです。もっと生物を大切に将来海に関係する仕事をしたいと思っています。(小6男子)
- ・鯛のエサをどれが合うか研究し続けていることを聞いて、一所懸命にがんばっていることを知りました。(小6女子)
- ・真珠の歴史や育て方、また鯛の養殖の話など知らなかったことが多く、家庭ではなかなか体験できないことばかりで、親子で貴重な体験になりました。(保護者)
- ・宇和島市は、2年前の災害ボランティアで参加して以来で、復興して美しい宇和島になったことに感銘を受けました。この体験を家族や知人に伝えたいです。(保護者)

「きさいや、宇和島！」 ～宇和島市との海洋教育交流事業～  
日 程 表

- 1 実施日 令和2年11月21日(土) 9:30～15:30  
2 参加者 児童(4～6年生)37名 保護者32名 引率5～7名  
3 日程表 ※ 小雨実施

時刻	内 容
9:30	宇和島市長 歓迎のあいさつ 場所：きさいや広場
9:50	新居浜市の小型バス4台で移動
10:10	真珠玉出し体験 場所：Yamashita-Pearl 等 (平浦) ・ 5つの真珠小屋に分散して実施 ※ 協力：真珠養殖業者5軒 (平浦)
11:10	新居浜市の小型バス4台で移動
11:30	昼食, 真珠アクセサリー作り 等 場所：きさいや広場 6班に分かれて、以下の①②③を30分ずつローテーション ① 昼食 (レストラン) ② 真珠を使ったアクセサリー作り (市民ギャラリー) ※ 協力：県漁業協同組合宇和島事業部 ③ 自由時間 (買い物等)
13:40	新居浜市の小型バス4台で移動
14:00	みかん鯛の養殖見学, えさやり体験 場所：中田水産 (坂下津) 6班に分かれて、以下の①②③を20分ずつローテーション ① DVD視聴, みかん鯛養殖等の説明 ② えさやり体験 ③ フィッシュガール&魚食男子によるみかん鯛解体ショー ・ みかん鯛と真鯛の刺身食べ比べ ※ 協力：宇和島P, 中田水産, 水産高 宇和島市副市長 お別れのあいさつ
15:30	新居浜市の小型バス4台で移動

学校名

愛媛県新居浜市立多喜浜小学校

採択活動名

海の恵みで発展してきたふるさとを学ぶ～多喜浜塩田を未来に伝えよう～

実施単元

単元名	学年	教科
1. うみのいきものとなかよし	1年生	海洋教育科、国語科、図画工作科
2. 海の生き物を調べよう！	2年生	海洋教育科
3. 海からのおくり物	3年生	海洋教育科、国語科
4. 海のめぐみ 多喜浜塩づくり隊	4年生	海洋教育科、社会科、総合的な学習の時間
5. 多喜っ子海洋調査隊	5年生	海洋教育科、学級活動
6. 多喜っ子 海洋守り隊	6年生	海洋教育科

取り組みの概要

## 1 活動のねらい

本校は、世界で唯一、塩田施設を有し、「塩の学習館」において、「塩作り体験」を行うことができる。このような施設や多喜浜塩田の文化遺産を核にして、本校を新居浜市の「ふるさと学習」の拠点として位置付け、学習活動を展開する。様々な学習活動を通して、地域の文化遺産を未来に伝える意義や方策、また多喜浜塩田の歴史と海とのつながりや海洋環境保全について学び、学習の内容や成果を積極的に発信し、保護者、地域と連携して持続可能な社会の担い手を育てる。

## 2 実施内容

### (1) うみのいきものとなかよし

身近な海や海の生き物への興味・関心を高めるために、校区の海の生き物と触れ合ったり、水族館で近海の生き物を観察したりするとともに、漁師の方の話を聞いたり、海に囲まれた島の暮らしを知ったりする。そして、それらをまとめ、発表する。



### (2) 海の生き物を調べよう！

身近な海の生き物や環境への興味・関心を高めるために、多喜浜の海や瀬戸内海に生息する海の生き物を観察したり、触れ合ったりするとともに、多喜浜漁港の様子を見学したり、多喜浜の海で獲れる魚を調べたりする。そして、見つけた海の生き物について振り返り、児童同士で共有させる。

### (3) 海からのおくり物

海と自分たちがつながっていることに気付き、海から多くの恵みを受けていることを理解するために、多喜浜の海の生き物や海に関わる人たちと接したり、海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べたりする。



### (4) 海のめぐみ 多喜浜塩づくり隊

多喜浜の海や生き物を観察したり、多喜浜塩田について調べたり、塩作りを体験したりする。また、昔から継承されている伝統ある塩田や先人の苦勞について調べ、学習したことをまとめて発表する。

#### (5) 多喜っ子海洋調査隊

多喜浜の海や瀬戸内海に生息する生き物や植物を観察する。また、多喜浜の海岸の環境について調べ、流れ着くごみの種類や様子についてまとめて発表する。



#### (6) 多喜っ子 海洋守り隊

実際に近郊の海に出向き、生息する生き物を観察する。また、海と関わる仕事をしている方の話を聞いたり、水産物や海洋環境について調べたりする。そして、学習したことをまとめて発表する。

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 様々な体験活動を通して、海に親しみをもち、海の生き物への興味・関心を高めることができた。
- ・ 地域が大切にしている塩田文化のもととなる「海」に直にふれることを通して、その楽しさや資源の豊富さなどの魅力を感じることができた。
- ・ 海洋ゴミの存在を知ること、自分たちの生活を見直すきっかけとなった。
- ・ 「かしょい（助け合い）」の精神が生まれた背景を知り、自分たちの生活の中に「かしょい（助け合い）」を目標として取り入れようと考えようになった。また、塩田文化を後世に伝えるために地域の方々が努力されていることに気付くことができた。

#### (2) 課題

- ・ 海洋調査等専門性が高い内容があるため、外部機関や地域との連携が不可欠である。
- ・ コロナ禍で体験活動の実施が困難であったため、児童の意欲付けが難しかった。今年度実施できなかった活動も含め、次年度への校内での引継ぎを確実にを行う必要がある。
- ・ 調べたり体験したりしたことを伝える場面において、しっかりと自分の思いや考えを伝える表現力の育成に努めたい。

## 多喜浜小学校 第1学年 「海っこタイム」年間指導計画

学期	時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 学 期	1	「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習への意欲を高める。	「海っこタイム」のねらいを確認し、これからの学習の流れをつかむ。
	2	・海や海の生き物に関心を持たせる。 ・磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動させる。	校区にある黒島海浜公園へ行き、総合科学博物館博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。
	1	・清掃作業を通して、海ゴミの実態に気づくとともに、海を守る気持ちを持たせる。	班別に分担場所を決めて、黒島海浜公園の清掃を行う。
	4	・海に関する展示に興味を持たせる。 ・様々な生き物を知る。	総合科学博物館へ行き、施設内を見学したり、話を聞く。
2 学 期	2	・海の生き物や海に興味を持たせる。 ・海の生き物様子を知る。	多喜浜漁港に行き、漁師の方と交流する。
	6	・四国周辺の海の様子を知る。	四国水族館へ行き、海洋生物の生態を観察する。
	4	・交流を通して、郷土への愛情を深める。 ・海とともに生活している様子を知り、海への関心を高める。	渡海船に乗って大島へ行き、地域の方と交流する。
3 学 期	4	・学んだことや楽しかった気持ちをまとめる中で、海への関心を高める。	学んだことや、楽しかった気持ちを振り返り、まとめたことを発表する。

多喜浜小学校 第2学年 「海っこタイム」年間指導計画

学期	時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 学 期	1	「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習への意欲を高める。	「海っこタイム」のねらいを確認し、これからの学習の流れをつかむ。
	2	・海や海の生き物に関心を持たせる。 ・磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動させる。	校区にある黒島海浜公園へ行き、総合科学博物館博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。
	1	・清掃作業を通して、海ゴミの実態に気づくとともに、海を守る気持ちを持たせる。	班別に分担場所を決めて、黒島海浜公園の清掃を行う。
	4	・海に関する展示に興味を持たせる。 ・様々な生き物を知る。	総合科学博物館へ行き、施設内を見学したり、話を聞く。
2 学 期	2	・海の生き物や海に興味を持たせる。 ・海の生き物様子を知る。	多喜浜漁港に行き、漁師の方と交流する。
	6	・四国周辺の海の様子を知る。	四国水族館へ行き、海洋生物の生態を観察する。
	4	・交流を通して、郷土への愛情を深める。 ・海とともに生活している様子を知り、海への関心を高める。	渡海船に乗って大島へ行き、島を散策したり、地域の方と交流する。
3 学 期	2	・学んだことや楽しかった気持ちをまとめる中で、海への関心を高める。	学んだことや、楽しかった気持ちを振り返り、まとめたことを発表する。

多喜浜小学校 第3学年 「海っこタイム」年間指導計画

学期	時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 学 期	1	「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習への意欲を高める。	「海っこタイム」のねらいを確認し、これからの学習の流れをつかむ。
	2	・海や海の生き物に関心を持たせる。 ・磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動させる。	校区にある黒島海浜公園へ行き、総合科学博物館博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。
	1	・清掃作業を通して、海ゴミの実態に気づくとともに、海を守る気持ちを持たせる。	班別に分担場所を決めて、黒島海浜公園の清掃を行う。
	4	・海に関する展示に興味を持たせる。 ・様々な生き物を知る。	総合科学博物館へ行き、施設内を見学したり、話を聞く。
2 学 期	4	・海に興味を持ち地域の方と交流する。 ・海の様子について知る。	地元の垣生海岸へ行き、地域の方と交流する。
	6	・四国周辺の海の様子を知る。	四国水族館へ行き、海洋生物の生態を観察する。
	5	・海から受けている恵みについて調べたり考えさせる。 ・海から多くの恩恵を受けていることを理解させる。	かまぼこ工場を見学し、海で取ることができるものがどのような食品に姿を変えているかを学ぶ。
3 学 期	5	・学んだことをまとめ、海を守っていこうとする意識を持たせる。	学んだことをまとめ、発表する。



多喜浜小学校 第4学年 「海っこタイム」年間指導計画

学期	時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 学 期	1	「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習への意欲を高める。	「海っこタイム」のねらいを確認し、これからの学習の流れをつかむ。
	2	・海や海の生き物に関心を持たせる。 ・磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動させる。	校区にある黒島海浜公園へ行き、総合科学博物館博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。
	1	・清掃作業を通して、海ゴミの実態に気づくとともに、海を守る気持ちを持たせる。	班別に分担場所を決めて、黒島海浜公園の清掃を行う。
	4	・海に関する展示に興味を持たせる。 ・様々な生き物を知る。	総合科学博物館へ行き、施設内を見学したり、話を聞く。
	4	・「海の豊かさを守ろう」の目標について自分にできることを考えさせる。	SDGs 14の目標について自分にできることを考え、ポスターや新聞を描く。
2 学 期	4	・海に興味を持ち地域の方と交流する。 ・海の様子について知る。	地元の垣生海岸へ行き、地域の方と交流する。
	2	・塩の作り方を知り、海の大切さに気づかせる。	塩作りについて話を聞いたり、体験する。
	6	・四国周辺の海の様子を知る。	四国水族館へ行き、海洋生物の生態を観察する。
3 学 期	7	・学んだことをまとめ、海を守っていこうとする意識を持たせる。	学んだことをまとめ、発表する。

多喜浜小学校 第5学年 「海っこタイム」年間指導計画

学期	時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 学 期	1	・「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習への意欲を高める。	「海っこタイム」のねらいを確認し、これからの学習の流れをつかむ。
	4	・海や海の生き物に関心を持たせる。 ・磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動させる。	校区にある黒島海浜公園へ行き、総合科学博物館博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。
	1	・清掃作業を通して、海ゴミの実態に気づくとともに、海を守る気持ちを持たせる。	班別に分担場所を決めて、黒島海浜公園の清掃を行う。
	6	・大三島に生息する生き物の種類や数を観察し、地元の海との共通点や違いに気づかせる。	大三島の海岸へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と海洋生物の観察を行い、多喜浜の海と比較する。
2 学 期	6	・四国周辺の海の様子を知る。	四国水族館へ行き、海洋生物の生態を観察する。
	5	・学習したことを効果的にまとめる。	調べて分かったことや身近な海の環境問題についてテーマを決めてまとめる。
3 学 期	6	・学習したことを伝えあうことを通して、海洋の環境保全や海との共生について考え、自ら行動できる意識を持たせる。	学習を振り返り、身近な海の環境問題について、自分たちの考えをまとめ、発表する。

多喜浜小学校 第6学年 「海っこタイム」年間指導計画

学期	時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 学 期	1	・「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習への意欲を高める。	「海っこタイム」のねらいを確認し、これからの学習の流れをつかむ。
	4	・海や海の生き物に関心を持たせる。 ・磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動させる。	校区にある黒島海浜公園へ行き、総合科学博物館博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。
	1	・清掃作業を通して、海ゴミの実態に気づくとともに、海を守る気持ちを持たせる。	班別に分担場所を決めて、黒島海浜公園の清掃を行う。
	6	・荷内の海岸に生息する生き物を観察し、身近な海の様子を知り、海を取り巻く環境問題に気づかせる。	荷内海岸へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と海洋生物の観察を行い、身近な海の問題を考える。
2 学 期	6	・切抜の海岸に生息する生き物を調査し、その種類や生息数を通して、海の様子を知り、近隣の海岸と比較させる。	切抜の海へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と海洋生物の観察を行い、地域の海の問題を考える。
	6	・四国周辺の海の様子を知る。	四国水族館へ行き、海洋生物の生態を観察する。
3 学 期	5	・学習したことを伝えあうことを通して、海洋の環境保全や海との共生について考え、自ら行動できる意識を持たせる。	学習を振り返り、身近な海の問題について、自分たちの考えをまとめ、発表する。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	今村 知子

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

うみのいきものとなかよし

### 1-2. 学年

第1学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、国語科、図画工作科

### 1-4. 単元の概要

身近な海や海の生き物への興味・関心を高めるために、校区の海の生き物と触れ合ったり、水族館で近海の生き物を観察したりするとともに、漁師の方の話を聞いたり、海に囲まれた島の暮らしを知ったりする。そして、それらをまとめ、発表する。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は、校区に海や山を有し、自然豊かな場所にある。児童たちは、虫捕りをしたり、木の実や落ち葉を拾ったりして自然の中で楽しく遊んでいる。しかし、海の生き物については、直接触れたり、名前や特徴を知っていたりする児童は多くない。

そこで、まず、校区内の海岸に行き、干潟に住む生き物と触れ合い、海の生き物に興味をもたせたい。次に、四国水族館に行き、四国周辺の海に住む生き物の様子を、間近で観察させたい。そして、多喜浜漁港で獲れた魚を見たり、大島交流センターで海に囲まれた大島の自然や暮らしについての話を聞いたりして、海と共に生活している様子を知らせたい。さらに、国語科「うみのかくれんぼ」の学習を受けて、どんな海の生き物がどのようにして隠れているかを、今までの活動を想起させながら、図書を使って調べ、発表させる。いろいろな体験活動を通して、海に親しみをもち、海の生き物への興味・関心を高めたいと考え、本単元を設定した。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

海の生き物に触れ合う活動を通して、海の生き物への興味・関心を高めたい。また、体験したことや楽しかった気持ちをまとめ、発表する活動を通して、自分の考えを分かりやすく伝える力を育みたい。

1-7. 単元の展開（全20時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 荷内海岸へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と一緒に海の生き物と触れ合う。</li> </ul>	<p>【主】海の自然に親しみ、進んで海や海の生き物に関心をもつ。</p> <p>【知・技】磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動することができる。</p> <p>外部連携…愛媛県総合科学博物館</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四国水族館に出掛け、四国周辺の海の様子を知り、海の生物への関心を高める。</li> </ul>	<p>【主】海の生き物や海の様子に興味をもち、楽しんで見学する。</p> <p>【知・技】四国周辺の海の様子を知ることができる。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多喜浜漁港に行き、漁師の方から海や魚に関する話を聞いたり、魚を見たりする。</li> </ul>	<p>【主】海の生き物や海に興味をもち、楽しんで見学する。</p> <p>【知・技】黒島周辺の海の様子を知ることができる。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方が利用する渡海船に乗って大島交流センターに行き、所長から海に囲まれた大島の自然や暮らしについて、話を聞く。</li> </ul>	<p>【主】海の自然に親しみ、関心をもって島の生活についての話を聞く。</p> <p>【知・技】海の様子や海と共に生活している様子を知ることができる。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな海の生き物がどのようにして隠れているか、今までの体験活動を想起させながら、図書を使って調べる。</li> <li>・ これまでの活動で、学んだことや、楽しかったことを振り返り、まとめたことを集会で発表する。</li> </ul>	<p>【主】海洋教育の学習を通して、海と関わり、海を大切にしようとする気持ちをもつ。</p> <p>【知・技】1年間学習したことを、わかりやすく発表することができる。</p>

2. 学習活動の実際

導入：国語科「うみのかくれんぼ」の学習内容を振り返る。

活動：海の生き物の隠れ方について図書を使って調べる。

まとめ：どんな海の生き物が、どのようにして隠れているかを発表する。

2-1. 単元における位置づけ

単元 20 時間中の 17, 18 時間目

2-2. 本時の目標

海の生き物の隠れ方を進んで調べることを通して、海や海の生き物への関心を高めることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 国語科「うみのかくれんぼ」での学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はまぐりは、すなにもぐって隠れる。</li> <li>・ たこは、まわりとおなじいろに、からだのいろをかえて隠れる。</li> <li>・ もくずしよいは、かいそうをからだにつけて隠れる</li> </ul> <p>2 他のかくれんぼする海の生き物について、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やどかりは、すなの中に隠れていた。</li> <li>・ かには、いしの下に、隠れていた。</li> </ul> <p>3 本を使って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かれいは、まわりのすなとおなじいろにからだのいろをかえて、隠れる。</li> <li>・ くまのみは、いそぎんちゃくの中に隠れる。</li> <li>・ おうぎがには、いしにそっくりだから、いしのそばに隠れる。</li> <li>・ 隠れえびは、からだがとうめいでめだたない。</li> </ul> <p>4 調べて分かったことを発表する。</p>	<p>教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海の生き物が、どのようにして隠れていたか、国語科での学習内容を振り返らせる。</li> <li>・ 「もぐる」「色を変える」「体に付けて隠れる」など、隠れ方に着目させる。</li> <li>・ 荷内海岸で見つけた海の生き物の様子を想起させる。</li> <li>・ 「うみのかくれんぼ」や「海の生きもののかくれんぼ」等の図書から、どんな生き物が、どのようにして隠れているかを調べさせる。</li> <li>・ 調べて分かったことをワークシートに絵や文でまとめさせる。</li> </ul> <p><b>【主】</b> 海の生き物の隠れ方に関心をもち、進んで調べている</p> <p style="text-align: right;">(観察・ワークシート)</p>

	<p>【思・判・表】調べたことを分かりやすく発表することができる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
--	--

### 3. 今回の活動の自己評価

- ヤドカリやカニを初めて自分の手で捕まえた児童もいて、どの児童も楽しく体験活動に取り組むことができた。
- 国語科の学習を受けて、海洋教育科で調べ学習に取り組んだり、観察した海の生き物を図作品で表したりして、他教科と関連付けて取り組むよう心掛けた。
- 科学博物館の協力を得たことで、その場で、すぐに児童の質問や感想に答えていただくことができた。

### 4. 今後の課題

- いろいろな体験活動に取り組むことができたが、日程が離れていたため、次の活動に取り組む直前に、前の活動を振り返っておく必要がある。
- 海の生き物を中心に進めてきたが、それを取り巻く海にも目を向けさせ、視野を広げて学習させることが望ましい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 生き物と触れ合い親しめる時間を十分に確保すること。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	浅野 里実

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

海の生き物を調べよう

### 1-2. 学年

第2学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科

### 1-4. 単元の概要

身近な海の生き物や環境への興味・関心を高めるために、多喜浜の海や瀬戸内海に生息する海の生き物を観察したり、触れ合ったりするとともに、多喜浜漁港の様子を見学したり、多喜浜の海で獲れる魚を調べたりする。そして、見つけた海の生き物について振り返り、児童同士で共有させる。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は、海や山に囲まれた自然豊かな小学校である。児童たちは恵まれた環境の中、伸び伸びと過ごしている。しかし、自然や生き物などに親しみをもっているものの、身近な海の生き物を知ったり、触れ合ったりする経験がある児童は多くはない。

そこで、まず、校区内の海岸に生き物を探しに行った経験を振り返り、海の生き物について調べたいと考える。次に、四国水族館に行き、身近な海にどのような生き物がいるのか、どのような場所に生息しているのかなど、実際に見て学ばせたい。さらに、校区にある大島に行き、大島に生息する海の生き物を見たり、漁師の方に大島での生活や獲れる魚、仕事などについて聞いたりすることで、身近な海に生息する様々な生き物や環境に対する興味・関心を高めたいと考え、本単元を設定した。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

海の生き物に関わる様々な場所に行き、見たり聞いたりする活動を通して、海の生き物への興味・関心を高めたい。また、児童たちが学んだことをまとめ、発表する活動を通して、自分の考えを分かりやすく伝える力を育みたい。



1-7. 単元の展開（全17時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷内海岸での活動を振り返り、海の生き物について調べる計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの児童自身と海の生き物との関わりを振り返ることで、活動への動機付けを行う。</li> <li><b>【思・判・表】</b> これまでの経験を振り返り、海にどのような生き物が生息しているのかを考えることができる。</li> <li>外部連携…愛媛県総合科学博物館</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>海にはどのような生き物がいるのかを調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海にはどのような生き物が生息しているのかを調べることで、様々な種類の海の生き物を見付けることができるようにする。</li> <li><b>【主】</b> 海の生き物に対する関心をもち、進んで海の生き物について調べる。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国水族館に行き、海の生き物を観察したり、触れ合ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた海の生き物を思い出しながら、四国周辺の海の生き物と比べ、生息する場所の違いに気付くことができるようにする。</li> <li><b>【主】</b> どのような海の生き物がいるのか、どのような環境に生息しているのかを見付けようとする。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>多喜浜漁港に行き、漁師の仕事や獲れる魚についての話を聞いたり、インタビューをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁師の方へインタビューをすることで、これまで児童が見たり調べたりした事柄と身近な海の実際の様子を結び付けられるようにする。</li> <li><b>【知・技】</b> これまで調べたことをもとに質問を考え、漁師の方へインタビューをすることができる。</li> <li><b>【思・判・表】</b> 学習を通し、見付けたことや分かったことについて振り返ることができる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習したことを振り返り、見付けたことを児童同士で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見付けた海の生き物について振り返り、児童同士で共有させることで、海の生き物に親しもうとする心情を高める。</li> <li><b>【思・判・表】</b> これまでの学習を振り返り、自分の考えを友達に伝えることができる。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

導入：知っている海の生き物について話し合う。

活動：図書などで調べたり、四国水族館や多喜浜漁港に行ったりして、海の生き物や生息する環境について知る。

まとめ：活動を通して、知ったことを話し合っ共有する。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 

1 7
-----

 時間中の 

1 2, 1 3, 1 4, 1 5
--------------------

 時間目

### 2-2. 本時の目標

多喜浜漁港に行き、漁師の方の話を聞いたり、実際に魚に触れたりすることで、身近な海の生き物や海に関わる人の仕事について知ることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 多喜浜漁港に行く目的を確認する。</p> <p>2 多喜浜漁港の漁師の方へインタビューをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな魚がとれるのかな。</li> <li>・ 取った魚はどうするのか。</li> <li>・ 季節によってとれるものはちがうのかな。</li> <li>・ どんな仕事をしているのかな。</li> </ul> <p>3 多喜浜漁港でとれる魚について、漁師の方から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろんな魚がとれるのだな。</li> <li>・ 知っている魚がいたよ。</li> <li>・ 知らない魚がたくさんいたよ。</li> <li>・</li> </ul> <p>4 インタビューしたことや漁師の方からの話を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大島ではたくさんの魚がとれるよ。</li> <li>・ 漁師さんの仕事は大変だな。</li> <li>・ 季節によってとれる魚はちがうよ。</li> </ul>	<p>・ 考えてきた質問をもとに、インタビューをさせる。</p> <p><b>【知・技】</b> 漁師の方に自分が考えたことを質問し、分かったことをメモに取ることができる。 (観察・ワークシート)</p> <p>・ 多喜浜漁港で獲れる魚を見たり、触ったりさせる。</p> <p>・ どのような場所でどのような魚が獲れるのか話してもらい、魚が獲れる環境に目を向けられるようにする。</p> <p><b>【思・判・表】</b> 学習を通し、見付けたことや分かったことについて振り返ることができる。 (ワークシート)</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

- 図書で調べ学習を行うだけでなく、四国水族館に行って実際に海の生き物を見ることで児童の海の生き物への興味・関心を高めることができた。
- 泳ぐスピードなどにも着目して観察している児童もあり、様々な視点から海の生き物を知ることができた。
- 児童が見付けたことを共有する際、見た魚を発表するだけになってしまったため、魚の様子なども共有できるように工夫するとよかった。

### 4. 今後の課題

- さらに学びを深めるには、調べたり、見たりする活動だけでなく、海に関わる人に話を聞く活動をもっと多く取り入れる必要がある。
- 今回は、海の生き物に親しみをもち、知ることをねらいとして活動を行った。これからは、海についてより広い視野で学んでいくために、海の生き物とそれを取り巻く環境にも目を向けられるような工夫が必要である。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 学習したいことなどを漁港で働いている人と打合せを行うこと。
- 季節によって海の状況が異なるので、時期を考慮して学習を進めていくこと。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	今村 友萌

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

海からのおくり物

### 1-2. 学年

第3学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、国語科

### 1-4. 単元の概要

海と自分たちがつながっていることに気付き、海から多くの恵みを受けていることを理解するために、多喜浜の海の生き物や海に関わる人たちと接したり、海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べたりする。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。そのため、児童たちは、塩田のカルタで遊んだりする中で多喜浜に塩田があったことは知っている。しかし、「海」との直接的な関わりは意外に少なく、海での活動体験も乏しいことが分かった。

3年生は、国語科「すがたをかえる大豆」を学習し、大豆が加工されて様々な食品に変化していることを知っている。また、給食に大豆が姿を変えた食品が出ると、意欲的に見付けるなど、食について関心を示すようになった。

そこで、海の生き物や海に関わる人たちにインタビューしたり図書などで調べたりする活動を通して、海の生き物が加工されて身近にある様々な食品に姿を変えていることを理解させたい。さらに、食の観点から海と自分たちがつながっていることに気付き、私たちが海の恵みを受けていることを理解させたいと考え、本単元を設定した。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動や海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べることを通して、海と自分たちがつながっていることに気付くと共に、海から多くの恵みを受けていることを知り、海を大切にしようとする態度を養いたい。また、調べたことをまとめて発表することを通して、分かりやすく伝える力を育みたい。

1-7. 単元の展開（全20時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷内海岸へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師と連携を図り、児童が様々な観点から海と触れ合うことができるようにする。</li> <li>【主】海の様子に関心をもち、進んで海や海の生き物に親しむ。</li> <li>【知・技】磯活動での注意事項を理解し、安全に活動することができる。</li> <li>外部連携…愛媛県総合科学博物館</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国水族館へ行き、太平洋や瀬戸内海等、四国周辺の海の様子を知ると共に、海の生き物に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【主】海の生き物や海の様子に興味をもち、楽しんで見学する。</li> <li>【知・技】四国周辺の海の様子を知ることができる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが海からどのような恵みを受けているかを考える。</li> <li>地域の漁師さんに、どのような魚を取っているのか話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞きたいことをまとめさせておき、主体的にインタビューや観察ができるようにする。</li> <li>【主】海から受けている恵みについて関心をもち、進んで調べたり考えたりする。</li> <li>【知・技】私たちが海から多くの恵みを受けていることを理解することができる。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒲鉾工場を見学し、蒲鉾がどのような食材から作られているかを学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察の目的や自分が解決しようとする課題をもたせて見学に向かわせる。</li> <li>【主】意欲的に見学をしたり質問をしたりして、自分の課題を解決しようとする。</li> <li>【知・技】蒲鉾が魚からできていることを理解することができる。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>海で取ることができるものが加工された他の食品について調べ、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【主】海から受けている恵みについて関心をもち、進んで調べたり考えたりする。</li> <li>【思・判・表】調べたことを自分なりの表現でまとめたり発表したりすることができる。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

導入：国語科「すがたをかえる大豆」の学習内容を振り返る。

活動：海の生き物がどのように食べ物にすがたをかえているかを調べる。

まとめ：どのような食べ物があったのか、発表する。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 20 時間中の 16, 17 時間目

### 2-2. 本時の目標

海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 国語科「すがたをかえる大豆」での学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大豆に手を加えると、豆腐やみそ、しょうゆなどの食品に姿を変えていた。</li> <li>・ 手を加えると、いろいろな食品に姿を変えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科での学習内容を振り返らせる。</li> <li>・ 「ゆでる」など、手を加える言葉に着目させる。</li> </ul>
<p>2 海の生き物で、姿を変えている食べ物には何があるか、予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蒲鉾や、海苔などがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパーマーケットに並んでいる食品を思い起させ、視点を広げさせる。</li> </ul>
<p>3 本を使って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蒲鉾以外にも、海の生き物に手が加えられ、他の食品に姿をかえているものがたくさんある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書室にある、「すがたをかえる食べ物」や、「海の生きものからできる食べ物」に関する本から、どのように姿をかえているかを簡単な手順表にまとめさせる。</li> </ul> <p><b>【主】</b> 海から受けている恵みについて関心をもち、進んで調べたり考えたりしている。 (観察・ワークシート)</p>
<p>4 調べて分かったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海の生き物の中にも、手を加えられる身の回りの食品に姿を変えているものがあることがある。</li> </ul>	<p><b>【思・判・表】</b> 調べたことを自分なりの表現でまとめたり発表したりすることができる。 (観察・ワークシート)</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

- すがたを変える食品について、口頭での確認になってしまったので、学習内容の振り返りが浅くなってしまった。
- 手を加えられることで、ちがう食品に姿を変えていた事例を確認するために、国語の教科書を開いて振り返る必要がある。
- 国語科で学習しているため、より発展的な内容を調べるということで、調べる目的が明確であり、子どもたちは意欲的に取り組むことができた。
- 使った図書が「食材がどのように手を加えられているのか」が分かりやすく書かれていたため、児童は意欲的に調べ学習を行うことができた。

### 4. 今後の課題

- 今回は、手を加えて姿が変わっていく様子がわかりやすい図書を使用したがる、数に限りがある。そのため、インターネットなどを活用して調べ学習を進めていく必要がある。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 工場見学ができる施設を確保すること。
- 調べ学習を行う時の、図書の確保、ホームページの確認などしておくこと。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	教諭 元山 佐弥香

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

海のめぐみ 多喜浜塩づくり隊

### 1-2. 学年

第4学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、社会科、総合的な学習の時間

### 1-4. 単元の概要

多喜浜の海や生き物を観察したり、多喜浜塩田について調べたり、塩作りを体験したりする。また、昔から継承されている伝統ある塩田や先人の苦労について調べ、学習したことをまとめて発表する。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。しかし、この地域が塩田で栄えたという面影は、表向きには見られない。塩田に関わって生きた人々の伝承や、塩田資料館、ソルティ多喜浜などの施設を通して、それらを思い起こしながら学習するのが現状である。

そこで、社会科の郷土を知る学習の中で多喜浜塩田について学ぶと共に、総合的な学習の時間に多喜浜塩田の史跡などについても調べる。それらの学習と関連させながら、塩作りや地域で継承されている多喜浜塩田の道具について詳しく調べることを通して、海がかつてこの地にもたらした恵みに興味をもち、塩の元である海などの見学や塩作り体験を行いながら、海洋保全の必要性や大切さに気付かせたいと考え、本単元を設定した。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性を培い、海の自然に親しもうとする心情を育てたい。また、塩田について調べまとめる活動を通して、塩の元である海に関心をもち、環境保全の必要性に気付くとともに、的確な情報発信を行うなどの伝える力を育みたい。



1-7. 単元の展開（全19時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩田資料館を訪れ、DVDを鑑賞したり、多喜浜塩田の道具等の展示を見学したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方から説明を聞いたり、実物を見たりすることで、興味をもたせる。</li> <li>【主】多喜浜塩田に興味をもち、進んでメモをする。</li> <li>【知・技】多喜浜塩田で使われていた道具等や当時の様子を知ることができる。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>多喜浜塩田について学び、詳しく知りたいことについて図書資料やインターネットなどで調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたいテーマを決めさせ、図書資料やインターネットを活用させる。</li> <li>【主】多喜浜塩田について、進んで調べる。</li> <li>【知・技】時代とともに塩田の仕組みが変化したことや当時の人々の苦労などについて詳しく知ることができる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方と垣生漁港へ行き、かん水元である海水を汲む。海水を持ち帰り、校内施設の流下盤に流し、かん水を作る工程を観察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこから海水を汲み上げているか着目させる。</li> <li>【主】海の様子に興味をもち、地域の方と楽しく交流する。</li> <li>【知・技】海の様子について知ることができる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方から塩作りについて話を聞き、塩作りを体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持ち帰った海水からできたかん水を用いて塩作りをすることで、海の恵みに気付かせる。</li> <li>【主】塩作りに興味をもち、進んで取り組む。</li> <li>【知・技】塩の作り方を知り、海の大切さに気付くことができる。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>多喜浜塩田や塩作りについて調べ、分かったことや海の様子について、グループごとにまとめて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩作りから海洋保全の必要性に気付く、海を守っていかこうとする気持ちを高めることができるようにする。</li> <li>【思・判・表】「海っこタイム」で学習したことを、効果的にまとめることができる。</li> </ul>

2. 学習活動の実際

導入：塩のもととなるかん水はどこからやってくるのか予想する。

活動：垣生漁港で、海水汲み体験をしたり、ソルティ多喜浜を見学したりする。

まとめ：次回の活動へ意欲付けをする。

2-1. 単元における位置づけ

単元 19 時間中の 9, 10 時間目

2-2. 本時の目標

- ・ 垣生漁港で、かん水の元となる海水を採取し、海の様子について興味をもつ。
- ・ 流下式塩田でのかん水の作り方を見学し、次回の塩作りへ向けて、関心を高めることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 垣生漁港へ移動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 垣生漁港はどこにあるのかな。</li> </ul> <p>2 ポリタンクへ海水を汲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海からポンプで汲み上げている。</li> <li>・ たくさんの海水を汲んでいる。</li> </ul> <p>3 汲み上げている場所（仕組み）を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海の表面の水ではない。</li> <li>・ 深いところから汲んでいる。</li> <li>・ 海の表面にはゴミが浮いている。</li> </ul> <p>4 かん水を学校に持って帰り、ソルティ多喜浜に運ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここでかん水を作っている。</li> <li>・ ポリタンクがたくさんある。</li> </ul> <p>5 流下盤や枝条架を見学し、かん水の作り方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流下盤に、たくさんの石を並べている。</li> <li>・ 荷内海岸で広い集めた石なんだ。</li> <li>・ 海水をここに流してかん水を作って</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホースから出る海水の勢いが強いいため、しっかりと持つように声掛けをする。</li> <li>・ 順番に全員に体験させる。</li> <li>・ 海の表面からではなく、深いところからポンプで汲み上げていること、表面にゴミが浮いていることに気付かせる。</li> </ul> <p><b>【主】</b> 海の様子に興味をもち、地域の方と楽しく交流している。 (観察)</p> <p><b>【知・技】</b> 海の様子について知ることができる。 (観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流下盤に敷き詰めている石の量に、着目させる。</li> <li>・ かん水の作り方の説明をしっかりと聞くように促す。</li> </ul>

<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く塩を作りたいな。</li> </ul> <p>6 学習のまとめをする。</p>	<p><b>【主】</b> 塩作りについて関心をもつことができる。 (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時の活動を知らせ、意欲付けをする。</li> </ul>
---	---

### 3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 垣生漁港の海の様子について興味をもち、海に浮いているゴミに気付くことができた。</li> <li>・ 地域の方に協力していただき、専門的な知識を学ぶことで、児童の意欲につながった。</li> <li>・ 実際に見学したり体験したりすることで、塩作りへの興味・関心が高まった。</li> </ul>
---

### 4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外での活動の場合、天候による延期が想定されるため、ゆとりある日程調整が必要である。</li> <li>・ 地域の方や施設等との連携も不可欠であるため、地域の方への連絡や移動の手配等も考慮する必要がある。</li> <li>・ コロナ禍における暑さ対策等、児童の体調管理にも気を配る必要がある。</li> </ul>
---

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天候やコロナ等の特殊な事情により、屋外での活動が制限される場合を考慮すること。</li> </ul>
---

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	教諭 宇高 陽子

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

多喜っ子 海洋調査隊

### 1-2. 学年

第5学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、学級活動

### 1-4. 単元の概要

多喜浜の海や瀬戸内海に生息する生き物や植物を観察する。また、多喜浜の海岸の環境について調べ、流れ着くごみの種類や様子についてまとめ、発表する。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。児童たちはこれまで、多喜浜塩田の歴史を総合的な学習の時間の中でしっかりと学んできた。このことにより、自分たちにとって、海は切り離すことのできないかけがえのないものであると感じている。しかし、そのかけがえのない存在である「海」との直接の関わりは意外にも少なく、海での活動体験も乏しいことが分かった。

そこで、まず、校区内の海岸へ調査に出掛け、海の生き物に触れたり、海と親しんだりするとともに、これまでとは違った「海」との関わりをもち、海洋に対する興味・関心を高めたい。そして、そこから、生き物たちの生息する「海」の環境へと視野を広げていきたい。さらに、集団宿泊訓練で訪れた大三島の海でも、生き物調査を行うなど様々な活動を通して、生き物の多様性や海のつながりなどを体感させ、海洋保全の必要性や大切さに気付かせたいと考え、本単元を設定した。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や関心を培い、海の自然に親しもうとする心情を育てたい。また、海的环境について調べたりまとめたりする活動を通して、海的环境保全に主体的に関わろうとする態度を養うとともに、的確な情報発信を行うなどの伝える力を育みたい。

1-7. 単元の展開（全21時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷内海岸へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師と連携を図り、児童が様々な観点から海と触れ合うことができるようにする。</li> <li>【主】海の自然に親しみ、進んで海や海の生き物に関心をもつ。</li> <li>【知・技】磯活動での注意事項を理解し、安全に活動することができる。</li> <li>外部連携…愛媛県総合科学博物館</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>大三島の海岸で、総合科学博物館の専門学芸員の方と一緒に、海洋生物の観察を行い、多喜浜の海と比較する。</li> <li>生息する生き物から分かる海の状態について知る。</li> <li>出会った生き物や海の様子について新聞にまとめ発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大三島の海岸に生息する生き物を調査し、その種類や生息数に目を向け、多喜浜の海との共通点や相違点に気付くことができるようにする。</li> <li>【知・技】生息する生き物の種類や個体数によって、海の状態を知ることができることを知り、観察することができる。</li> <li>外部連携…愛媛県総合科学博物館</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返る。</li> <li>荷内海岸でゴミ拾いを行い、海洋ゴミの量や種類について調査する。</li> <li>海岸の砂を採取し、浮遊物を調査する。</li> <li>マイクロプラスチックについて知りそれらを減らすために自分たちができることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で分かった各海岸の共通点や相違点を確認していく中で、海洋ごみの存在に気付くことができるようにする。</li> <li>【知・技】身近な海にも海洋プラスチックが存在していることを知るができる。</li> <li>【思・判・表】海洋プラスチックを減らすために自分たちにできることを考えることができる。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>多喜浜の海洋生物の生息状況等、調べて分かったことや、身近な海の問題について、自分たちの考えをまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋の環境保全や海との共生について考え、自分たちにできることを実行していこうとする気持ちを高めることができるようにする。</li> <li>【思・判・表】「海っこタイム」で学習したことを効果的にまとめることができる。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

導 入：海洋調査をして気付いたことや分かったことについて確認する。

活 動：調査 荷内海岸に打ち上げられている海洋ごみの種類を調べる。

荷内海岸の砂を採集する。(干潟・波打ち際・丘上)

観察 採集した砂を水につけ、浮遊物を採取し観察する。

まとめ：調査・観察した内容をまとめ、次時の活動へつなげる。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 

2 1
-----

 時間中の 

1 2, 1 3, 1 4
---------------

 時間目

### 2-2. 本時の目標

荷内の海岸調査を行うことで、海洋ゴミやマイクロプラスチック問題に関心をもち、海洋環境の保全に対する意識を高めることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 荷内海岸調査の目的と注意点を確認する。</p> <p>2 打ち上げられているゴミの回収を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 波打ち際より、丘側にゴミが散乱している。</li> <li>・ 波打ち際に、海藻と混ざってプラスチック片がたくさん流れ着いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸に打ち上げられているゴミの様子や打ち上げられている場所に着目させる。</li> <li>・ 目につくゴミがどこにあるのか、それはなぜかを問いかけながら、海岸全体の様子に目が向けられるように声掛けをする。</li> <li>・ ゴミが無いように見える波打ち際も観察するよう促し、目につきにくいのが、実は、プラスチック片などの細かいゴミが多数流れ着いていることに気が付くようにする。</li> </ul> <p><b>【主】</b> どのようなゴミがあるのか興味をもって活動している。 (観察)</p> <p><b>【知・技】</b> 空き缶やプラスチックゴミが多く流れ着いていることを知ることができる。 (観察)</p>

<p>3 干潟・波打ち際・丘上の3か所の砂を採集する。</p> <p>4 持ち帰ったゴミの分別を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラスチックゴミは、細かく砕かれて流れ着いているものが多い。</li> </ul> <p>5 採集した砂を水に浸し、浮遊物を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミが一番多かった丘の砂に、マイクロプラスチックが多く含まれている。</li> <li>・ 干潟の砂にも少量ではあるが、マイクロプラスチックが含まれている。</li> </ul> <p>6 調査結果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丘上のプラスチックゴミが砕けて、いろいろな場所に飛ばされているのではないか。</li> <li>・ こんなに小さなプラスチック片なら、魚やカニなど、海の生き物が間違っても食べてしまっても仕方がない。</li> <li>・ ゴミを食べた魚はどうなるのだろう。私たちが食べている魚などにも、プラスチック片があるかもしれない。</li> <li>・ 海岸のゴミは、海から流されてきたものだけではないのではないか。</li> <li>・ 自分たちが、何気なく捨ててしまっているゴミも、海を汚しているのかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの場所の砂か確認できるようにしておく。</li> <li>・ ゴミの分別を行いながら、自分たちの生活との関連の有無について考えることができるようにする。</li> <li>・ マイクロプラスチックを確認できるよう、注意深く観察するよう声掛けをする。</li> <li>・ 海洋ゴミの問題が、自分たちにも関わりのある問題であることに気付くことができるように発問を工夫する。</li> </ul> <p><b>【主】</b> 海洋の環境保全の必要性に気付いている。 (ワークシート)</p>
--	---

### 3. 今回の活動の自己評価

- これまでの活動で、新居浜と今治の海を比較し、海洋を取り巻くいろいろな事柄を知ることができたが、どこか他人事のような捉え方をしている児童が多かった。
- 今回の活動を通して、海洋ゴミの問題は他人事ではなく、自分たちに直結している問題であることに気付くことができたように思う。そして、そこから自分たちの問題として、どのように解決していくことが望ましいのかを考えていく良いきっかけになった。

### 4. 今後の課題

- 海での活動は、潮の干満によって活動時間が左右されるため、雨天などと重なった場合、後日すぐに実施することができない。そのことも考慮した上で、ゆとりのある単元計画を立てておく必要がある。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 事前に海岸に出向いてごみの様子について調査を十分に行い、海洋プラスチックごみがどの辺りにあるのか、つかんでおくこと。
- 児童の安全面を十分確保すること。



学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	教諭 松下 博之

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

多喜っ子 海洋守り隊

### 1-2. 学年

第6学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科

### 1-4. 単元の概要

実際に近郊の海に出向き、生息する生き物を観察する。また、海と関わる仕事をしている方の話を聞いたり、水産物や海洋環境について調べたりする。そして、学習したことをまとめて発表する。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。児童たちはこれまで、この多喜浜塩田の歴史を総合的な学習の中で学んできた。このことにより、海は、自分たちにとって、切り離すことのできないかけがえのないものであると感じている。しかし、そのかけがえのない存在である「海」との直接の関わりは意外にも少なく、身近な海や水産業などについての知識も乏しいことが分かった。

そこで、まず、校区内の海岸へ生き物調査に出掛けることをきっかけに、海に触れ、海と親しむことから、海洋に対する興味・関心を高めたい。次に、海と関わる仕事をしている方から話を聞き、水産物や海洋環境について知り、その後の調べ学習によって理解を深める。これらの活動を通して、海と自分自身との深い関わりを感じさせ、持続発展的に海と共生する心情を育てたいと考え、本単元を設定した。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や関心を培い、身近な海での様々な営みを知ろうとする心情を高めたい。また、水産業や水産物、海洋環境について聞いたり、調べたりする活動を通して、海と自分自身の深い関わりを感じさせるとともに、的確な情報発信を行うなどの伝える力を育みたい。

1-7. 単元の展開（全22時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷内海岸で、総合科学博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師と連携を図り、児童が様々な観点から海と触れ合うことができるようにする。</li> <li>【主】海の自然に親しみ、進んで海や海の生き物に関心をもつ。</li> <li>【知・技】磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動することができる。</li> <li>外部連携…愛媛県総合科学博物館</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国水族館で、海洋生物の観察を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国水族館で、海洋生物の生態を観察し、様々な生き物に興味をもたせる。</li> <li>【主】海の生き物や海の様子に興味をもち楽しんで見学する。</li> <li>【知・技】四国周辺の海の様子を知ることができる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁港で、水産物、海洋環境についての話を聞いたり、漁の疑似体験をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海と関わる仕事をしている方の話を聞いたり、体験活動をしたりする活動を通して、水産物や海洋環境等について理解させる。</li> <li>【主】海と関わる仕事をしている方の話を主体的な態度で聞く。</li> <li>【知・技】水産物や海洋環境等について理解することができる。</li> <li>外部連携…垣生漁業協同組合</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産物や加工品、海洋環境の問題について調べ、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋環境の問題を、自分自身の問題として考えさせる。</li> <li>【思・判・表】自分自身と関連付けながら、調べたことを分かりやすくまとめ伝えることができる。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

導入： これまでの自分の生活を振り返る。

活動： 海と関わる仕事をしている方の話を聞き、水産資源や海洋環境の理解を深める。

まとめ： 聞いた内容や、調べたいことをまとめ、次時につなげる。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 1 7 時間中の 1 1, 1 2 時間目

### 2-2. 本時の目標

海と関わる仕事をしている方の話を聞く活動を通して、海と自分の生活の関わりを実感し、海と関わる仕事をしている方の思いに触れ、水産資源や海洋環境を理解し、海と共生する意識を高めることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 これまでに食べたことがある魚を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイ ヒラメ マグロなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの経験を振り返らせることで、興味をもたせる。</li> </ul>
<p>2 新居浜近郊の海で水揚げされる魚の種類を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めて知った魚がいる。</li> <li>・ どんな魚か見てみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの種類の魚が身近な海で水揚げされていることを理解させる。</li> </ul>
<p>3 実際に魚を見たり、触ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思っていたよりも重い。</li> <li>・ 持ち上げるのが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に魚に触る体験活動を取り入れることにより、魚に対する関心を高める。</li> </ul> <p><b>【主】</b> 海と関わる仕事をしている方の話を主体的な態度で聞いている。 (観察)</p>
<p>4 漁師さんの話を聞き、感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よく行く回転ずしのお店にも、この魚が使われていることに驚いた。</li> <li>・ 漁師さんは、魚をとるだけでなく、海を守る仕事をしていることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸に落ちているプラスチックごみや、海で育てている海藻を実際に見させることで、海洋環境について考えさせる。</li> </ul> <p><b>【知・技】</b> 水産物や海洋環境等について理解することができる。 (ワークシート)</p>
<p>5 加工販売している食品を実際に食べ、話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地物の魚を加工し、販売している方の思いを聞くことで、地産地消の大切さに気付かせる。</li> </ul>
<p>6 学習の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かったこと、さらに調べたいことなどをまとめ、次時への意欲付けを行う。</li> </ul>

### 3. 今回の活動の自己評価

- 5年時に学習した環境学習に加え、実際に海と関わる仕事をしている方の話を聞くことで、海洋環境についてより深く理解することができた。
- 身近な海から様々な種類の魚が水揚げされていることや、それらがよく知っているお店に卸されていることを知り、自分と海との関わりについて実感した。
- 海と関わる仕事をしている方の思いを聞くことで、海を大切にし、海を守りたいという意識を高めることができた。

### 4. 今後の課題

- 海洋環境の問題は、多岐にわたるため、調べ学習のみで進めることは難しい。ねらいを明確にして、さまざまな体験活動を取り入れる必要がある。
- 教員が授業のねらいをしっかりともち、外部講師と密に連絡を取り合う必要がある。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 加工食品を食べる活動では、アレルギー児童の確認や、保護者への連絡を確実に行うこと。
- 雨の際の対応を事前に外部講師と相談しておくこと。

学校名

新居浜市立泉川小学校

採択活動名

海の恵みで発展してきたふるさとを学ぶ～多喜浜塩田を未来に伝えよう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 自然災害からくらしを守る	4年生	社会、総合
2. 環境について考えよう	5年生	総合
3.		

取り組みの概要

(ねらい)

国語科や社会科で学習したことをもとに、環境問題について調べたり、自然体験したりすることにより環境を守るために必要なことや、自分の日頃の行動を考え、実行することができる児童を育てる。

#### (1) 自然災害からくらしを守る (4年生)

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目し、調べ学習や見学、体験、インタビューを通して知識を深める。

泉川地域ではどのように協力して自然災害に対処しているのか、今後に対してどのような備えを行っているのかということについて理解を深め、地域の一人として「気付き、考え、実行する」ことのできる能力や態度を育成する。

#### (2) 「大好き泉川の日」への参加 (全学年)

一人一人の小さな行動が、ふるさと泉川を守ることになることを自覚して、進んでボランティア活動を行う児童を育てるため、空き缶を回収したり、エコ活動の呼び掛けを行ったりしている。また、5・6年生を中心に



によりよい学校や校区づくりのために、泉川ボランティア手帳を活用し、奉仕活動やボランティア活動に取り組んでいる。こうした地域をきれいにする体験を通じて、海や山や川など環境を守る意識を醸成している。

#### (3) 環境について考えよう (5年生)

自然体験 (室戸自然の家での活動・宇和島市でのクルージング体験や真珠の玉出し体験) をすることにより、海の恵みのありがたさや海を大切に守ろうという気持ちが高まった。

また、本やインターネットで地球規模の環境について調べ、現在の自然環境を知り、これからの自分の行動を考えるきっかけとなった。



## 【5年生指導計画】

学校名	新居浜市立泉川小学校	
参加人数	児童 79名 指導者等 5名	
授業担当者	5年生担任	
協力者	盛運汽船株式会社、真珠の養殖業者	
場所	宇和島市新内港、平浦地区	
単元名	愛媛県の海を知ろう！（総合的な学習）	
本時のねらい	海の恵みから多くの産業を振興し発展させてきた県内の海洋産業の様子を体験することで、さらなる知見を深め、漁業の発展に対する思いを学習する。	
時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	1. 事前学習	・DVD等を視聴し、県内の養殖業について学ぶ。
2	<b>【クルーズ船の体験】</b> 2. 挨拶・ライフジャケット着用、安全指導 3. クルーズ船に乗車 ・鯛やマグロの養殖場を見学 ・クルーズ船内を見学 ・操舵室などで船の説明を受ける	・日本有数の養殖業の現場を見学し、地元の海との違いを実感する。 ・県内での環境の実態を知り、問題意識を持つ。
		愛媛県の海を調べよう
2	<b>【真珠の球出し体験】</b> 4. 真珠の養殖場を見学 ・養殖場の説明 ・真珠の養殖方法の説明 5. アコヤ貝の観察 ・アコヤ貝の体の構造 ・真珠を実際に取り出す	・養殖業に携わる人々の思いや漁業を続けるための活動や社会への貢献度について知る。 ・アコヤ貝の体の構造を学ぶ。 ・生命の尊さを学ぶ。
1	6. ふり返り：養殖現場について	
<持参物> ・ライフジャケット、タオル、レインコート  授業の実施状況、実施後の反省点等		